

総合福祉部会 第7回	
H22. 9. 21	参考資料3
小野委員提出資料	

しんぽう 新法へのねがい

りようしゃぶかい
きょうされん利用者部会

ぶかいちょう はやし ゆうこ
部会長 林 優子

きょうされんは、^{けっせい}以来^{らい}ずっと^{しょうがい}障害のある^{ひと}人の^{きもち}気持ちを受け止め、^{おも}その^ま思いを^{なか}真ん中に^す据え「利用者
が^{しゅじんこう}主人公」を^{たいせつ}大切に^{かつどう}活動しています。^{わたし}私たち「きょうされん利用者部会」は、^{ねん}2007年^{がつ}12月に^{けっせい}結成し、^{ひとり}一人
ひとりの^{おも}思いや^{ねが}願いを^{たいせつ}大切にしながら、^{ぜんこくたいかい}全国大会や^{りようしゃがくしゅうこうりゅうかい}利用者学習交流会などで、^{ぜんこく}全国の^{なか}なかつちとつな
がりを^{ふか}深めあい、^{ねが}みんなの^{じつげん}願いが^{とく}実現するように^{とく}取り組んでいます。

^{しょうがいしゃじりつしえんほうはいし}障害者自立支援法^{うんどう}廃止に^{わたし}むけての^{りようしゃ}運動では、^{かくち}私たち利用者も^{せつきよくてき}各地で^{うご}積極的に^{うご}動きました。

^{さいだい}最大の問題である^{おうえきふたん}応益負担の^{はいし}廃止に向け^む全国で、^{ちほう}地方で、^{しゅべつ}種別や^{たちば}立場の^{ちが}違いを^こ越え^{おお}多くの人と^{ひと}手をつ
なぎ、^{せいいつぱい}精一杯の^{うんどう}運動を展開しました。^{りっぽうふ}立法府や^{ぎょうせいふ}行政府に^{こえ}声を^{とど}届けるだけでなく、^{しほうふ}司法府にも^{うった}訴えようと

^{しょうがいしゃじりつしえんほういけん}障害者自立支援法^{そしょう}違憲訴訟が^{さいばん}おこりました。^{うった}裁判に^{てれび}訴えるために、^{しんぶん}テレビや^{しゅざい}新聞の^{しゅざい}取材など、

^{ぶら}プライバシーを^いさらけ出すことなど、^だたくさんの^{かつとう}葛藤があっても「^{しょうがい}障害を^じ自己責任とする^{かんが}考えからの^{ふたん}負担は
おかしい。」「^{はたら}なぜ^{りようりょう}働くのに^{きもち}利用料？」この^{じぶん}気持ちから、「このことは^{こくれんしょうがいしゃけんり}自分だけではない。」「^{こくれんしょうがいしゃけんり}国連障害者権利

^{じょうやく}条約に見^み合った^{ほうりつ}法律をつ^{おも}くってほしい」との^{そしょうげんこく}思いで、^{めい}訴訟原告として^{やおもて}71名が^た矢面に^{ねん}立ちました。2010年1

^{がつしょうがいしゃじりつしえんほういけんそしょう}1月^{ぜんこく}障害者自立支援法違憲訴訟は^{かしょ}全国14カ所の^{ちさい}地裁で「^{わかい}和解」^{はんけつ}判決が^{くだ}下されました。

^{あた}新しい^{ふくしせいど}福祉制度を^{つく}創る^{ほうこうせい}方向性が^{しめ}示され、「^{しょう}障がい者^{しやせいど}制度改革^{かいくすいしんかいぎ}推進会議」や「^{そうごうふくしぶかい}総合福祉部会」が^{はじ}始まり、

^{とうじしゃ}当事者や^{ふくしかんけいしゃ}福祉関係者が^{たすうくわ}多数^{かさい}加わって^{かつきてき}開催されていますが^{かつきてき}このことは^{かつきてき}とても^{かつきてき}画期的な^{かつきてき}ことです。^{とうじしゃ}当事者が

^{しゅつせき}出席し^{けつてい}決定の^ば場にいることや^{ぼうちょうかのう}傍聴可能な^{ほか}他、^{しゅわ}手話・^{じまく}字幕つきで「^め目で^き聴く^めテレビ」が^{ほうそう}CS放送され、^{しゅりょうご}終了後

^{おん}には^でオンデマンド^{はいしん}配信で^{ないよう}内容を^{おーぶん}オープンにし、^{ひろ}広く^し知らされる^{さまざま}様々な^{はいりよ}配慮が^ななされていることで、^{ぜんこく}全国から

新法に寄せる期待が高まっています。

この度、私たち利用者部会はアンケートを行いました。

仕事、暮らし、こんな社会になってほしいなど、日常の中で感じる率直な思いや切実な願いを知って

いただきたく、まとめた資料を提出します。

私たちは「差別がなくなってほしい」と願っています。暮らしている中でふと感じる差別がまだまだありま

す。障害をきちんと理解されず、批判的な言葉をあびさせられたり、作業所建設やグループホームを始め

るときも反対されたり、心が傷つくこともたくさんあります。「健常者」と「障害者」という区別がなくなりどん

な障害があっても住みなれた地域で障害のない人と同じように生きていきたいです。

「当事者が社会の対等な一員として安心して暮らすことのできる」社会にしていくという、「障害者自立

支援法違反訴訟の基本合意文書」に力を得て、とびっきりの新法ができることを期待し下記に記します。

1、事業所での願い

・作業所や施設で働いてもらう給料はまだまだ少ないので、「もっと給料が上がるように職員体制や

設備を整えてほしい」「就職できるようにしてほしい。」という声が多いです。現在の就労移行事業は、2

年間で終了となります。その人の体力や能力が活かせる就職先がなかなか見つからない社会の厳しい

現実から、不安になったり、自信喪失するなど前向きに進みにくい状況です。実態に合った制度に変え

てください。

・「みんなが働ける仕事がほしい」と願っています。作業所や施設では、それぞれのできることや得意

分野を活かして、工程ごとにいろいろな人の手が加わって完成します。自分のできることを活かして分担し、

持ちうる力をだしあうことで仕事ができます。一人ひとりの力を伸ばして次のステップに進めるため

にも、作業所や施設にもっと補助金を出して環境を整えてほしいです。また、地域で暮らす中、憩いの

ば そうだん ば しえん か じぎょうしょ ほじょきん だ あんしん
場・相談できる場として支援センターも欠かせないです。事業所にもっと補助金を出し、安心できるように
してください。

みぢか しょくいん あんしん せいかつ きゅうりょう おも しょうがいふくし み
・身近な「職員が安心して生活できるようなお給料にしてほしい」という思いもあります。障害福祉に身を

お けいけん つ ていちんぎん せいかつ べつ しょくぎょう せんたく りょう
置いて経験を積んでも、低賃金から生活のため別の職業を選択せざるをえないこともあり、それは利用

しゃ まいなす ふくし ひと さき しごと しょうがいふくし せんもんせい ふくしろうどう
者にとってもマイナスです。「福祉は人」といわれます。支える仕事、障害福祉の専門性・福祉労働の

かち ひと
価値をもっと認めてください。

2、暮らしでの願い

かぞく く なか おや な あと ほんにん かぞく びょうき とき よ ふあん こえ
・家族と暮らす中で、親亡き後、また、本人や家族が「病気になった時、どうしたら良いか不安。」という声
がおお
が多かったです。

ぐるー ぶ ほー む け あ ほー む ひとりぐ じぶん だれ す せんたく
・グループホームやケアホーム、一人暮らしなど、自分でどこに誰と住むか選択できるようにしてほしい
です。しょうがい せいかつ しえん あわ じゅうじつ かぞく しゃかい さき あら せいど つく
障害ゆえの生活の支援も併せて充実し、家族だけではなく、社会で支える新たな制度を創って
ください。

しょとく すく なか ひ び せいかつ きゅうしょくひ ふたん いっぱん かた りょうりょう お ぜいたく
・所得が少ない中、日々の生活や給食費の負担(一般の方は利用料も)に追われ、贅沢ではないちよつ
とした外出や衣類の購入、たまの旅行を控えている人も多く、「遊びに行きたい」「服を買いたい」という
きも
気持ちもあります。へ や す ぐす こと おお み こま なや ひと
部屋で過ごすことも多いので「テレビが見えなくなったら困る」と悩んでいる人もいま
す。え あ こん か え ない ひと ていしょとくしゃ せいかつかんきょうかいぜん しょとくほしょう しえん
エアコンがほしくても買えない人もいます。低所得者の生活環境改善にむけ、所得保障の支援をし
てほしいです。

ちきゅうおんだんか すず じしん たいふう しゅうちゅうごう じぜんさいがい ひんぱん お
・地球温暖化が進み、地震や台風、集中豪雨など自然災害が頻繁に起こりやすくなっています。とても
ふあん かん ひなん れんらく かくしょうがい おう ぐたいてき たいさく じょうほう ていきょう
不安に感じています。避難の連絡など、各障害に応じた具体的な対策への情報を提供してください。

ば そ こん なら いけん しゃかい い しょうしょく さい もと ひつよう ぎのう
・パソコンを習いたい。という意見もあります。IT社会と言われ、就職する際に求められる必要な技能で
す。さまざま あくせす こんなん ともな ひと おお ふ きかい ふ こうにゆうほじょ か だ
様々なアクセスに困難の伴う人も多いので、触れる機会が増えるよう、購入補助や貸し出し、

パソコン講習会などもっと行ってほしいです。

3、社会について

障害種別ごとの交通費の割引の格差をなくしてほしいと思っています。身体障害、知的障害に比べ

精神障害は立ち遅れています。他の障害であっても所得が低い場合は対象にするなど種別に限らず、

見直して工夫してほしいことがあります。

4、国に訴えたいこと

欧州諸国に比べ、日本の障害福祉施策は乏しいです。家族に依存するのではなく、成人すれば社会

で支えてほしいです。

近年、「当事者主体」が大切にされるようになってきたのですが、国連障害者権利条約に批准した国が

らみれば時代遅れな感は否めません。

現在、地域格差がはげしく、すんでいる場所によって支援時間数が違います。こんなことがないように、

どこに住んでいても同じにしてください。「地域主権改革法案」はこんな問題は起こらないのでしょうか。

アンケート集計より抜粋【自由筆記】それぞれの思い

病気になっても看病してほしい

保護者が高齢になって介護がむずかしくなってきた

親が年を取って心配

教養娯楽の補助金がほしい

おのおの しょうがい ていど あ しえん ていきてき おこな
各々の障害の程度に合わせた支援を定期的に行ってほしい

はは わたし ひとり とき こま
母とおばあちゃんがなくなって私が一人になった時に困ります。

どにち ぜんぶ やす
土日全部お休みがほしい

ぼん やす
お盆のお休みがほしい

きゅうりょう あ
給料をもっと上げてほしい

こ びょうき ときかんびょう
子どもが病気になった時看病ができない

ふくし にほん
福祉がなくなる日本になる

さぎょう わ みな なかよ
それぞれに作業は分かれるけど、皆さんと仲良くしています

げんざい しょうき ぼさぎょうしょ りょうしゃ ふたんきん にち い ほじょきんけいじょう
現在の小規模作業所では、利用者負担金が1日100円要りますが補助金計上になっていることがおか
しい

すく こうちん つき えん はら つら
少ない工賃から、月2000円も払うのはとても辛い

さいがい ときじょうほう おそ こま ちょうかくしょうがいしゃ じょうほう はや
災害の時情報が遅くて困った。聴覚障害者への情報を早くしてほしい。

こうつうひ し しちょう おな
交通費がもらえる市ともらえない市町がある。みんな同じようにもらいたい

びょうき かぞく かんびょう たいへんふあん
病気になったとき家族が看病できないので、大変不安です

びょうき かぞく かんびょう かね
病気になったとき家族の看病ができない。お金がないから

さぎょうしょ
作業所があつてありがたい

さぎょうしょ こうちん ことな こま
作業所ごとに、工賃が異なるのは困る

かよ さぎょうしょ こうちん こうてい き
通しやすい作業所なのに、工賃の高低で決めかねてしまう

しゅうろう はる わ く れんけい
就労につながるようにハローワークと連携してほしい

さぎょうしょ いえ おうふく しゃかい せつてん も
作業所と家の往復なので、社会との接点を持ちたい

ゆうがた きろん
夕方サロンみたいなものがあれば行きたい

けんじょうしゃ ひと
健全者の人ともしゃべりたい

しゃかい
社会とつながっていたい。常識を教えてくれる人とはなしたい

かくさ びょうどう あんしん く しゃかい
格差がなく、平等でみんなが安心して暮らせる社会になってほしい

けんじょうしゃ しょうがいしゃ かべ すく
健全者と障害者の壁をもっと少なくさせたい

あんしん く へる ぱー すてーしょん へる ぱー
安心して暮らせるようにヘルパーステーションのヘルパーをふやしてほしい

しょうとくほしょう あんしん
所得保障をして安心してらせるようにしてほしい

じりつしえんほう や はや あたら しょうがいしゃふくしほう
自立支援法を止めて、早く新しい障害者福祉法をつくってほしい

しょうがい き そねきん まんえん
障害基礎年金をふやしてほしい(20万円ほしい)

くるまい す い ばしよ の の もの
車イスで行ける場所や乗れる乗り物をふやしてほしい

しょうがいしゃ じきゅう えん はたら しごと
障害者も時給700~800円で働ける仕事がほしい

しょうがいしゃこよう まえむ と く ほ
障害者雇用を前向きに取り組んで欲しい

びょうき ひと すこ
病気の人のことをもう少しわかってほしい

びょういん かね すこ やす
病院のお金を少しでも安くしてほしい

いま さぎょうしょ く ぐる ーぶ ほーむ ほ
今の作業所のなかまたちといつか暮らせるグループホームが欲しい

しょうがい やす きゅうりょう ふつう きゅうりょう ほ
障害があるからと安い給料ではなく、普通に給料が欲しい

かいしゃ しゃかいてき しょうがいしゃ りかい う い ほ
会社(社会的)にもっと障害者を理解して受け入れてくれるところが欲しい

さいがい とき じょうほう おそ こま ちょうかくしょうがいしゃ じょうほう はや
災害の時、情報が遅くて困った。聴覚障害者への情報を早くしてほしい

こうつうひ し し まち おな
交通費がもらえる市ともらえない市や町がある。みんな同じようにもらいたい

だんさ ばりあふりー まち
段差のない、バリアフリーの町になってほしい

親の声

子どもの話しのしつこさに、朝晩聞くのが少しずつ体力がなくなってきた

親の方がノイローゼ気味になる時がある

子どもを外に連れて行ってやりたいが年を重ねると無理がある

本人の年金だけでは、あまり楽しむことができない

両親も年金生活で毎日の生活費を切りつめており最低限のことを考えて、大変な努力をしているようです

障害者がだんだん年老いて、親が亡くなった後の将来構想についての施策を具体的に示していただき、

親が安心して、この社会に子供(大人)を託していけるよう考えて欲しい

応能負担に、日割りから月割りへと、早く変更して欲しい

ケアホームへの補助金の単価を上げてほしい

利用者部会でのワークショップから

・働く上でなにがたりないか考えてみた。

1 工賃

2 生活保障

3 作業所の目標:

・作業所の職員の仕事への構え

・なぜ土日に仕事をするのか(制度に振り回されたくない)

・職員数がたりない

・自分にあった時間で働きたい

ちいき こうれい ひと こうけん こうりゆう
・地域や高齢の人に貢献・交流したい

しせつ しげん ゆうこうかつよう ちいき ひと こうりゆう
・施設の資源をもっと有効活用して地域の人と交流を

かいしゃ しゅうしょく たか きゅうりょう
・会社に就職してもっと高い給料がほしい

ぼらんていあ き
・ボランティアにもっと来てほしい

しよくば あし かくほ
・職場への足の確保

りょこう きゅうりょう
・旅行にいけるような給料を

す じぶん えら
・GHをもっとつくってほしい…住むところを自分で選びたい

さぎょうしょ せいひん う みせ ばしょ
・作業所の製品を売るお店・場所がほしい

じかん さぽーと たいせい
・24時間サポートできるような体制に

とし しょうがい ひと もんだい
・年をとった障害のある人の問題をどうするか

しよとくほしょう ねんきんせいど かいぜん
・所得保障(年金制度の改善)

いどう いりょう
・いつでも、どこでも(移動や医療)がつかえる